

ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター養成プログラム

コアカリキュラム

目 次

1. はじめに

2. ポリシー

①ディプロマ・ポリシー

②カリキュラム・ポリシー

③学修目標

3. カリキュラム

①概要・構成

②コーディネーション学入門

③新たな価値共創のためのしごと論

1) SDGs概論 SDGs を目指そう

2) 新技術概論 新技術を活かそう

3) 地域概論 地域を巻き込もう

④コーディネーション学概論

⑤コーディネーション学演習

⑥ストーリーテリング研究(修了研究)

1. はじめに

第4次産業革命が進展し、Society5.0 への移行が進んでいる。このような状況下において、イノベーションを起こすこと、新しい価値を創造することが求められている。

しかしながら、イノベーションや新しい価値の創造を単独の企業・人で起こすことは難しくなっている。すなわち、4次産業革命の可能性を最大限引き出すためには、自前主義、囲い込み型の組織運営から脱却し、業界の枠を超えたネットワーク構築により、オープンイノベーションを行うことが必要である。

しかし、オープンイノベーションを推進する人材は確実に不足していると言える。それは、様々な技術やサービスを自由な発想で新たな価値を創造することや、企業と企業を結びつけビジネスマッチングを行うことは容易ではなく、一定のスキル・能力を身につける必要があるからである。

そこで、機械や AI で代替できない創造性や感性といった能力・スキルを有しオープンイノベーションを推進するコーディネーターを養成するプログラムを構築する。

2. ポリシー

①ディプロマ・ポリシー

「共創」により、新しいビジネスの創造を目指す「コーディネーター」を養成する。

コーディネーターの養成に向け、以下の3つの人材養成目標を掲げる。

1. 人と人，人と技術，人と社会，様々な組合せを紡ぎ，新ビジネスを生み出すイノベーションに取り組むことができる。
2. 課題検証を行い，その解決に向け，共感を持って人を巻き込み行動することができる。
3. 顧客目線でアイデアを考え，自社以外のコンテンツを有効に活用，メディアやSNSに向けた情報発信を行い，多様な人を巻き込むことで事業拡大を行うことができる。

②カリキュラム・ポリシー

ビジネスを構築するにあたり必要な知識を修得するビジネス系の内容と、「共創」を推進するにあたり必要なスキルを身につけるコーディネーター系の内容により構成する。

③学修目標

次に掲げる5つの力を身につける。

1. 【課題解決力】ビジネスチャンスに立ちはだかる壁(課題)を検証し，適切な解決方法や課題と向き合う力を身につける。
2. 【探索力】最新の情報や質の高い情報につながる力を身につける。
3. 【巻き込み力】コミュニケーションスキルや共感センスを有し，支援のネットワーク(仲間，応援団)を構築する力を身につける。
4. 【企画発想力】他者(社)の企画をつなぎ合わせるような編集思考・マスコミや SNS を味方につけるようなストーリー思考を有して企画する力を身につける。
5. 【事業推進力】巻き込んだ方々をまとめあげ事業を推進するファシリテーション力，事業を推進し続けていく行動力を身につける。

上に掲げた5つの力が身についたかを評価するため，次のルーブリック(学習到達度を示した表。観点ごとにどういう能力を目指すのか，言葉で説明したもの。)を用いる。

当該ルーブリック評価は，各科目の前後で実施し，どの能力がどのくらい身についたかを計測する。

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
課題解決力	適切な課題が設定できていない	適切な課題が設定できている	適切な課題の設定と、その原因の検証、解決方法に論理性がある	課題解決に向けた具体的な行動計画が提示されている	課題解決に向けた具体的な行動計画が複層的に提示されている
探索力	適切な情報収集ができていない	テーマに対する情報収集の手法を理解している	テーマに対する基礎的な情報収集ができている	最新の情報及び質の高い情報を収集することができる	多様な視点で最新の情報及び質の高い情報を収集することができる
巻き込み力	共感者や支援者を獲得できていない	共感者や支援者を獲得する行動を始めている	共感者や支援者を獲得できている	多数の共感者や支援者を獲得でき、ネットワーク化できている	構築したネットワークと他のネットワークとが連携・協働している
企画発想力	事業企画に説得性が感じられない	事業企画に説得性と新規性がある	編集思考と（※1）ストーリー思考（※2）を有した事業企画をつくることができる	編集思考とストーリー思考を有して、支援者等と連携する事業企画をつくることができる	編集思考とストーリー思考を有して、社会にインパクトを与える事業企画をつくることができる
事業推進力	事業推進に向けた行動が見えない	事業推進に向け単独で行動できている	事業推進に必要な支援者をまとめている	事業推進に必要な支援者をまとめあげ、持続可能な事業を構築している	持続可能な事業を構築し、次なる事業展開を提案することができる

※1 編集思考: 素材の選び方、つなげ方を変えることで価値を高める思考

※2 ストーリー思考: 「物語」を活用することで共感を得て、購買意欲等を高める思考

3. カリキュラム

①概要・構成

以下の科目により構成し、すべてを必修とする。 合計120時間。

コーディネーション学入門		
	・コーディネーターとは ・チームビルディング及びアイスブレイク	4時間
新たな価値共創のためのしごと論		
	・ICT 教材(動画視聴), レポート作成	24時間(12本分)
	・反転授業(ディスカッション)	12時間(12本分)
コーディネーション学概論		
	・事業計画の立て方	8時間
	・プレスリリースの書き方／SNS の活用方法	8時間
コーディネーション学演習		
	・先進事例研究	24時間
	・ケースメソッド演習	8時間
ストーリーテリング研究(修了研究)		
	・調査及び事業計画書／プレゼン資料作成	12時間
	・中間プレゼン	4時間
	・再調査及び事業計画書改善／プレゼン資料作成	12時間
	・最終プレゼン	4時間
合 計		120時間

②コーディネーション学入門

(目的)

- ・本プログラムの目的, 養成する人材像, 身につけるスキル等について理解する。
- ・アイスブレイクを行い, 受講者間のコミュニケーションがスムーズになるようにする。
- ・チームビルディングを通じて, 受講者のコミュニケーションスキルを向上させる。
- ・次の科目である ICT 教材による学びのポイントについて理解する。

(概要)

コーディネーターになるにあたり必要な基礎的な内容について学ぶとともに, 受講者間のコミュニケーションを円滑に行う状態とするため, アイスブレイク・チームビルディングを行う。また, 次の科目である ICT 教材の受講にあたっての留意事項等を学ぶ。

(内容)

- 本プログラムに関する全体説明
- コーディネーターの仕事について講義
- アイスブレイク・チームビルディング
- 受講生からの自己紹介(プロフィールシート), 抱負, 質問などコメント
- ICT教材で学ぶにあたってリポートの書き方について説明

(補足)

With コロナ時代のコミュニケーションとして, オンラインツールを活用したコミュニケーションが必要となってくる。そのため, 本科目におけるチームビルディング等について, オンラインツールを活用して実施してみることも有益である。

(使用テキスト)

- ・コーディネーター学入門テキスト
- ・プロフィールシート

(プロフィールシート例)

<p>顔が判る写真</p>	<p>・プロフィール(職, 特技など) 「あなたは誰なのか」について。職種, 特技, 特殊技能, 経験, 資格など。なるべく箇条書きで記入。</p> <p>・取り組んでいること(仕事, プライベート) 「何をしているのか」について。どんな状況下で, どんなことをしているのか。</p>
<p>氏名: ○○○○ 所属・職業: ○○○○</p>	<p>・目指すこと ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター養成プログラムで学ぶことを活かして, 近い将来に何をを目指すのか。</p>
<p>取り組んでいることの内容がわかる写真など</p>	<p>・こんなことを学びたい! 箇条書きで記入。複数可。</p> <p>・興味, 関心キーワード 関心が高いキーワードを3~5個を挙げ, 簡単な説明をつける。</p>
<p>写真の説明文を入れる</p>	

③ICT 教材「新たな価値共創のためのしごと論」

(目的)

- ・ビジネストレンド(SDGs, 地域特性, 新技術等)を活用する視点を身につける。
- ・コーディネートするにあたって必要な思考回路をつくる。

(概要)

3種類のICT教材(合計 12 本)を視聴し, それぞれ1本ずつレポートを作成する。
レポートをもとに受講者間でディスカッションを行う。

●ICT 教材の詳細

回	教材の内容
1	SDGs概論 SDGsを目指そう① 概論 国連大学サステナビリティ高等研究所の永井三枝子氏がSDGsとは何か, そして今後求められる人材について解説する。SDGsと経済・金融の関わりについて野村証券野村ホールディングスの園部晶子氏と, 2018 年ジャパンSDGs(外務大臣)賞を受賞した会宝産業の近藤高行氏が対談。経団連 SDGs本部長の長谷川知子氏が取り組みを語る。
2	SDGs概論 SDGsを目指そう② 未来可能性 金沢市の高校教師, 吉川佳祐氏は「ミニマリスト」。必要最小限の持ち物で, 丁寧な暮らしを実践する。富山県高岡市の鋳物メーカー「能作」は製品が売れない, 後継者がいないという悩みを抱える伝統産業の未来可能性を追求している。産業観光という道を選ぶことで, ヒトとモノを循環させるという新たな地域の活性化に挑んでいる。
3	SDGs概論 SDGsを目指そう③ ボーダーレス社会 「誰一人取り残さない」という SDGs の理念と企業の出会いが新たなビジネスチャンスとなる。シューズメーカー「アシックス」のブランドであるオニツカタイガーでは, 自閉症の兄妹アーティストの絵画をシューズに採用している。十分な教育を受けることができない子どもたちに学習機会を届ける「すららネット」(東京)の取り組みなどを紹介。
4	SDGs概論 SDGsを目指そう④ 行政から市民への広がり 琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐ滋賀県の官民挙げた環境保全の取り組みを紹介。近江商人の「三方よし(売り手よし, 買い手よし, 世間よし)」の精神が SDGs の精神と合致している。第1回「ジャパンSDGsアワード」(2017 年)の特別賞を受賞した北九州市では, 商店街がエコルーフ(太陽光パネル)を設置したり, 空き店舗などを積極的に活用している。
5	新技術概論 新技術を活かそう① AI 人間のような「知的」な知能とされるAIには3つの構成要素がある。AIと機械学習, そして深層学習(ディープラーニング)だ。機械学習は特定事象のデータを学習し, モデルを獲得して判断や予測を行う。ディープラーニングは機械学習の手法の一つ。「アマゾン ウェブサービス ジャパン」の亀田治伸氏がそれぞれの特徴について解説。総合司会石田貢氏。

6	<p>新技術概論 新技術を活かそう② ブロックチェーン</p> <p>仮想通貨ビットコインの基盤技術として知られるようになった「ブロックチェーン」は金融や流通、契約取引を始め、食品のトレーサビリティなど幅広い分野での活用が見込まれている。ITベンチャー「スタートバーン」の大野紗和子氏がブロックチェーンをめぐる法制度や導入事例について説明する。司会の石田貢氏とそのビジネス創造について語る。</p>
7	<p>新技術概論 新技術を活かそう③ 5G・IoT</p> <p>高速大容量、低遅延、多数同時接続の特徴を持つ次世代通信規格「5G」について、総務省の「5G利活用アイデアコンテスト」で入賞した活用事例の紹介。野村総合研究所の亀井卓也氏が5Gの未来可能性について解説。AI に代表されるデジタルテクノロジーについて、「インテック」の中川郁夫氏がデジタルイノベーションについて独自の視点で語る。</p>
8	<p>新技術概論 新技術を活かそう④ VR／AR／MR</p> <p>現実の世界と仮想の世界をIT技術で融合する バーチャルの世界（AR拡張現実・MR複合現実・VR仮想現実）。その領域は学校の授業や終活、社員研修、交通安全システム、医療・介護など様々なシーンで広がりを見せている。ITベンチャー「Mogura」の久保田瞬氏、同じく「ジョリーグッド」の上路健介氏が自らの起業体験を交えて解説する。</p>
9	<p>地域概論 地域を巻き込もう① 生涯活躍のまち</p> <p>内閣府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、『生涯活躍のまち』構想を推進する。石川県白山市にある社会福祉法人「佛子園」の雄谷良成氏が「ごちゃまぜ」のコンセプトを紹介する。子ども、若者、お年寄り、障害のある人・ない人、日本人や外国人、それらの人々が一緒に集うとことで街に活気が生まれ、それぞれの人に役割が生まれる事例を紹介する。</p>
10	<p>地域概論 地域を巻き込もう② 地域商社①</p> <p>地域ブランドコンサルタント、金子和夫氏による講義。地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展していく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域でしかできないことを明確にして、世界に対して発信していく取り組みでもある。地域ブランドの戦略づくりをテーマに、地域資源の再評価、アクションプランについて解説する。</p>
11	<p>地域概論 地域を巻き込もう③ 地域商社②</p> <p>地域ブランドコンサルタント、金子和夫氏による講義。地域ブランドとは、農林水産業、食品産業、伝統工芸産業、観光サービス業、商業など幅広い。競合する地域との競争優位を確保する手法が地域ブランドでもある。地域ブランド戦略の作成、商品開発、ブランドのデザイン、広報戦略・情報発信、市場調査、地域商社の設立について事例をもとに紹介する。</p>
12	<p>地域概論 地域を巻き込もう④ 地域資源とインバウンド</p> <p>少子高齢化が進む地域で交流人口を増やすことによって、地域の活力を高めていこうと積極的にインバウンド観光に取り組む石川県能登町の一般社団法人「春蘭の里」の多田喜一郎氏が語る。金沢の古民家を再生してゲストハウスを展開する株式会社「こみんぐる」の林俊伍氏は世界に金沢の文化資源を発信していきたいと語る。</p>

(内容)

●ICT 教材の視聴

●レポートの作成

テーマ:

1) やってみたい, 取り入れてみたいことは何か

2) 実行するにあたり,

・「情報収集をどうやって(どんなふうに)行うか」

・「自社のどの強みを生かして進めればいいのか」

・「どの分野(組織や部門)に聞けばいいのか」

・「誰にどんな相談をして, どうやって進めればいいのか」

・「どんな資料を用意すればいいのか」

・「どの会社とアライアンスを組めばいいのか」

・「どんなセールスポイントになるか」 などを箇条書きでまとめる

●反転授業

チームを決め, 作成したレポートをベースとして受講者間ディスカッションを行う。

ディスカッションを進めて, チームで事業案(アイデアベース可)を作成する。

(補足)

反転授業のファシリテーターは, With コロナ時代を踏まえるなど, ICT 教材で取り上げられていないタイムリーな事案についても話題を提供すると, ディスカッションが活性化する。

(使用テキスト)

・価値共創のためのしごと論テキスト

・ICT 教材(12本)

④コーディネーション学概論

(目的)

コーディネーターとして必要なビジネスに関する知識を習得し, ビジネスをクリエイションするスキルを身につける。

(概要)

事業仮説を検証し, 事業計画書を作成する方法を学ぶ。

また, 事業計画について, 他社(他者)の協力・支援を受け, 社内での協力・承認を得るために必要なプレゼンテーションスキル, PR スキルを学ぶ。

(内容)

●事業計画書の立て方

事前学修として、事業プランについて概要を考える。

事業計画の立て方について講義を受ける。

講義を参考に、考えてきた事業プランを「ビジネス・クリエイティブ・コーディネーターのためのビジネスモデルキャンバス」に落とし込む。

●プレスリリースの書き方／SNS の活用方法

プレスリリースの書き方／SNS の活用方法について講義を受ける。

「ビジネス・クリエイティブ・コーディネーターのための企画書型プレスリリース」を参考に、プレスリリースを作成する。

また、作成したプレスリリースをもとに、受講者間のディスカッションを行う。

(使用テキスト)

・コーディネーション学概論テキスト

(使用フレームワーク)

・ビジネス・クリエイティブ・コーディネーターのためのビジネスモデルキャンバス

・ビジネス・クリエイティブ・コーディネーターのための企画書型プレスリリース

⑤コーディネーション学演習

(目的)

実践的なコーディネーション能力を身につける。

(概要)

視察先の事例をもとに、改善案や横展開案を考えディスカッションを行う。

また、設定されたケースにおいて、自らが当該者であった場合のディスカッションを行う。

これにより、コーディネーターとしての思考回路を身につける。

(内容)

●先進事例研究

(1) 訪問先の事例について、横展開するとしたらどのようなプランが考えられるか？

(2) 自らのプランに取り入れてみたいと感じたこと

(3) 訪問先の取り組み等において、更に改善したらよいと感じたことについて、

自らの考えをまとめ、受講者間でディスカッションを行う。

●ケースメソッド演習

提供するケースに対し、自分だったらどう対応するのか？どう改善するのか？をコーディネーター視点で考える。

①アクセラレーションプログラム（事業会社とスタートアップとのオープンイノベーションプログラム）の事例等，企業間連携の事例

②道の駅，地域商社などの地域での優良事例
などを提供ケースとして，ケースメソッドを行います。

注1) ケースメソッドとは

ハーバードロースクール生まれ，ハーバードビジネススクールで体系化されたメソッドです。唯一の正解があるわけではない不確定要素の多い状況の中で，ひとごとではなく意思決定する疑似体験するものです。

一つの状況に対して，多くの異なった意見・視点が提示されることで自分の考え方のクセ（バイアス）を認識していくプロセスを体験します。教員は正解を教えるのではなく全体討議を促すことに注力することになります。参加者の発言と気づきが最も重要な学習資源です。

注2) ケースメソッドを有効に実施するために

ケースメソッドは，ディベートではありません。

すなわち，相手を打ち負かすものではなく，意見交換を通じて“自ら考える力を養うものです。次のルールに基づいて，実施しましょう。

1. 自分の意見や立場に固執しない。
2. ゆったりと話し合う。
3. 相手の発言に耳を傾け，その背景について探求する。
4. 1人のつぶやき，ふと思ったこと，偶然に起こる現象を大切にして，全員で波紋のように広げる。

⑥ストーリーテリング研究（修了研究）

（目的）

課題解決に向け，他社の技術や人材，地域の資源，新技術を活用し新事業を構築する力を身につける。

（概要）

新規事業・コラボ事業の立ち上げを担当することになった場合，どのようなストーリーで他社や地域を巻き込んでいくのかの企画書及びプレスリリースを作成し，プレゼンを行う。

また，中間プレゼンを行い，受講者間でもフィードバックをし合うことで，様々な角度でビジネスを考える視点を身につけるとともに，自らのプランのブラッシュアップをはかる。

(内容)

●調査及び事業計画書／プレゼン資料作成

これまでのプログラムの内容を踏まえて、自らが担当するビジネスをクリエイトする。

ニーズ調査なども行いながら、どのようなストーリーで他社や地域を巻き込んでいくのかに留意し、企画書及びプレスリリース、プレゼン資料を作成する。

●中間プレゼン

中間プレゼンを行い、受講者間で互いにフィードバックを行う。

●再調査及び事業計画書改善／プレゼン資料作成

中間プレゼンを踏まえて、ブラッシュアップを行う。

●最終プレゼン

審査員を前にプレゼンを行う。

(備考)

調査及び事業計画書／プレゼン資料作成にあたっては、状況に応じて、受講者が希望する講師を招聘して、講義や個別指導を行う。

(評価指標)

本プログラムで養成する5つの力(課題解決力、探索力、巻き込み力、企画発想力、事業推進力)と関連する指標及び収益性・事業継続性に基づいて、提案事業を5段階で評価する。

課題解決力	●設定した課題の解決に資する事業か (目指したい社会の実現につながる事業か)
探索力	●事業内容に新規性があるか その根拠となる適切な情報収集ができているか
巻き込み力	●事業実施にあたり、必要な人・企業の協力を得ているか(得られそうか)
企画発想力	●事業内容が多面的でストーリー性を持っているか
事業推進力	●事業実現に向けて発表者が主体的にやり続けることができそうか ●動機と実施する事業との整合性がみられるか
収益性・事業継続性	●収益性の観点から見て持続可能な事業内容となっているか

4. 修了判定基準

- ①出席率 2/3 以上。ただし、社会人向けプログラムであることを考慮して、補講等で代用した時間を含めることができるものとする。
- ②ストーリーテリング研究評価の総平均点数 3.0 以上。

上記、①及び②をともに満たす場合を修了とする。

また、ルーブリック評価シートを使用した自己評価及び講師評価を通じて、スキルの修得度を測る。